

「郷土人形にみる歳時記」開催！！ YOKOHAMA DOLL MUSEUM

横浜人形の家
1986 The world cruise of doll

会期:3月30日(土)~5月19日(日)

郷土人形を通して知る日本の四季の魅力！！

郷土人形は、お正月の獅子頭や京都の祇園祭の山鉾の玩具のように、地域に根差した祭礼や年中行事とも密接に関連している物が少なくありません。

そこで、本展では、日本の四季を軸に各地の郷土人形、約 150 点を紹介いたします。

全国各地の多彩な風土に育まれた郷土人形を通して、日本の四季や地域ごとの多様性を感じていただければと思います。

●見どころ 四季をキーワードに郷土人形を紹介

春:ひな祭や端午の節句など、子供の健やかな成長を祈る行事が行われます



薩摩の糸雛(鹿児島県)
薩摩糸雛は、紙の立ち雛です。
半割りの竹を心棒にし、竹を雛の首に見立て、その端に付けた麻糸を後部にたらし髪としてしています。ひな祭りでは、ひな段に立てかけて祝ったとされています。

夏:祖先の霊を迎えるお盆や、厄病を払う祇園祭などが行われます



祇園祭の山鉾(京都府)
「祇園祭」は疫病退散を祈念する神事が始まりで、京都の夏を告げる風物詩となっています。

秋:豊作に感謝するお祭りなどが行われます



八朔(はっさく)の馬(福岡県)
八朔(旧暦 8 月 1 日)では、田面(たのむ)の節とよばれ、秋の実りの成熟を喜び祝う祭が行われました。福岡県芦屋では、長男が生まれ、初めて迎える八朔の時に、わら馬(八朔の馬)を作り飾り、その子の成長を祈ります。

冬:一年に感謝し、新年を迎える準備が行われます



松川だるま(宮城県)
全国的にも珍しい青いだるまです。19 世紀半ば、伊達藩士、松川豊之進が創始したものといわれています。玩具というよりも宝尽くしの縁起物として親しまれてきました。

→裏面もご覧ください

お問い合わせ先

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー 事業部 企画戦略部門
広報担当マネージャー 中村 淳 TEL : 045-671-9361

*本日は 19:00 まで在席しております。

●郷土人形とは

「郷土玩具」「郷土人形」という呼称は意外と新しく、明治以降に使われるようになった言葉です。各地で、紙や土、木など身近にある素材を使い、古くから作られている玩具で、子供の遊び道具だった他、厄除けや縁起物など、様々な役割をもっていました。

当初、子供向けに作られたこうした玩具は、やがて大都市を中心に大人たちをも魅了し、収集し愛好される存在ともなりました。

しかし、明治以降、社会の変化のなかで、こうした素朴な人形玩具たちは次第に衰退し、廃絶を余儀なくされるものも少なくありませんでした。

一方で、消え行く人形や玩具を哀惜する多くの人々の努力により、現在まで作り続けられている人形も数多く存在しています。各々の地域の風土に生まれ、その中で生み出された郷土玩具は、他の工芸作品とは異なった個性と美しさを持っており、現在においても人々を惹きつける魅力を持っています。



夏：金魚ねぷた(青森県)



秋：田面船(広島県)

開催概要

会期：平成 25 年 3 月 30 日(土)～5 月 19 日(日)

会場：横浜人形の家 3 階 第 3 展示室 開館時間：9 時 30 分～17 時(入館は 16 時 30 分まで)

休館日：毎週月曜日(該当日が祝日に当たる場合はその翌日)

入館料：おとな(高校生以上) 300 円 こども(小・中学生) 150 円

ホームページ：<http://yokohama-doll-museum.com/>

同時開催！！

人形の家「端午の節句」

会期：4月2日(火)～5月6日(月・休)

場所：2階常設展示内 トピックスコーナー

5月5日の「端午の節句」にあわせて凛々しい五月人形たちを紹介いたします。

この時期に節句を祝う行事は平安時代にさかのぼるとされますが、変遷を経て、江戸後期には現在の「端午の節句」の原型が出来上がったといわれています。

「大将」や「神武天皇」「鍾馗」など、明治から昭和前期の人形を中心に約 30 体の紹介いたします。

地域や時代により人形の種類や飾り方は様々ですが、そのいずれにも子供たちの健やかな成長への祈りが込められています。



大将(江戸末期～明治)



大将(明治)